

須江地区火力発電所に 係る要望書

**須江地区の環境を守る住民の会
保護者の会**

作成：保護者の会 代表 我妻久美子

要 望

**私たち須江地区住民は、
2022年2月着工予定の
『須江地区火力発電所』の建設計画に
強く反対の意思を表明します。**

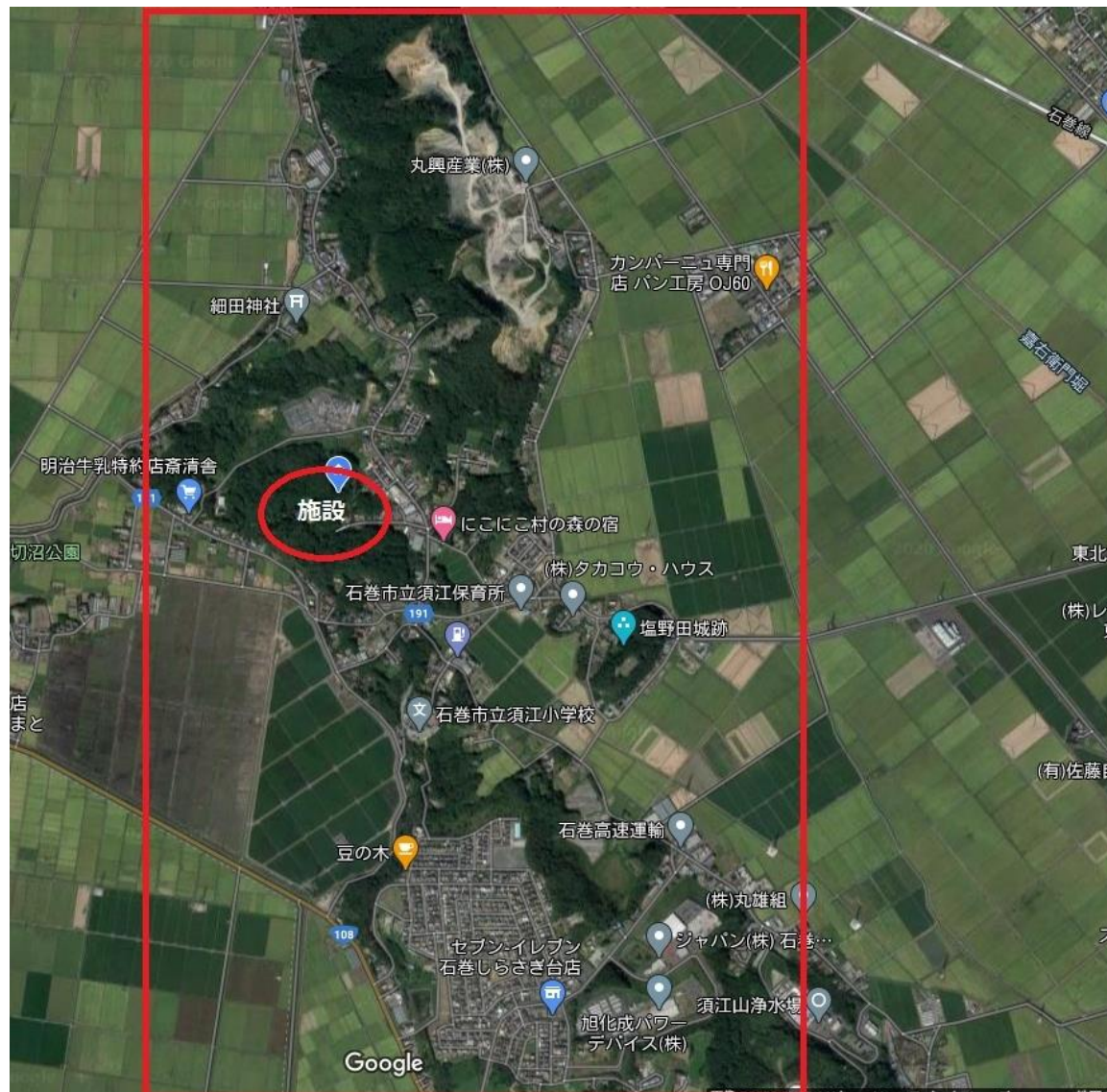
**建設計画における複数の問題点を
次ページより提示いたします。
ご一読いただき、住民の声をお聞きくだ
さい。**

事業計画の概要

項目	内容
事業の名称	G-Bio 石巻須江発電事業
事業の種類	火力発電所設置事業 (宮城県環境影響評価条例第一種事業)
位置	宮城県石巻市須江字瓦山 地内
面積	約81,000m ² (内、発電事業で改変する面積は約50,000m ²)
原動力の種類	内燃力及び汽力のコンバインドサイクル発電
出力	102,750kW (内燃力979,000kW+汽力4,850kW)
工事開始時期	2022年2月頃 (予定)
運転開始時期	2025年8月頃 (予定)

問題点1

住宅地のほぼ中心に位置し、地区全土に影響が及ぶ可能性がある



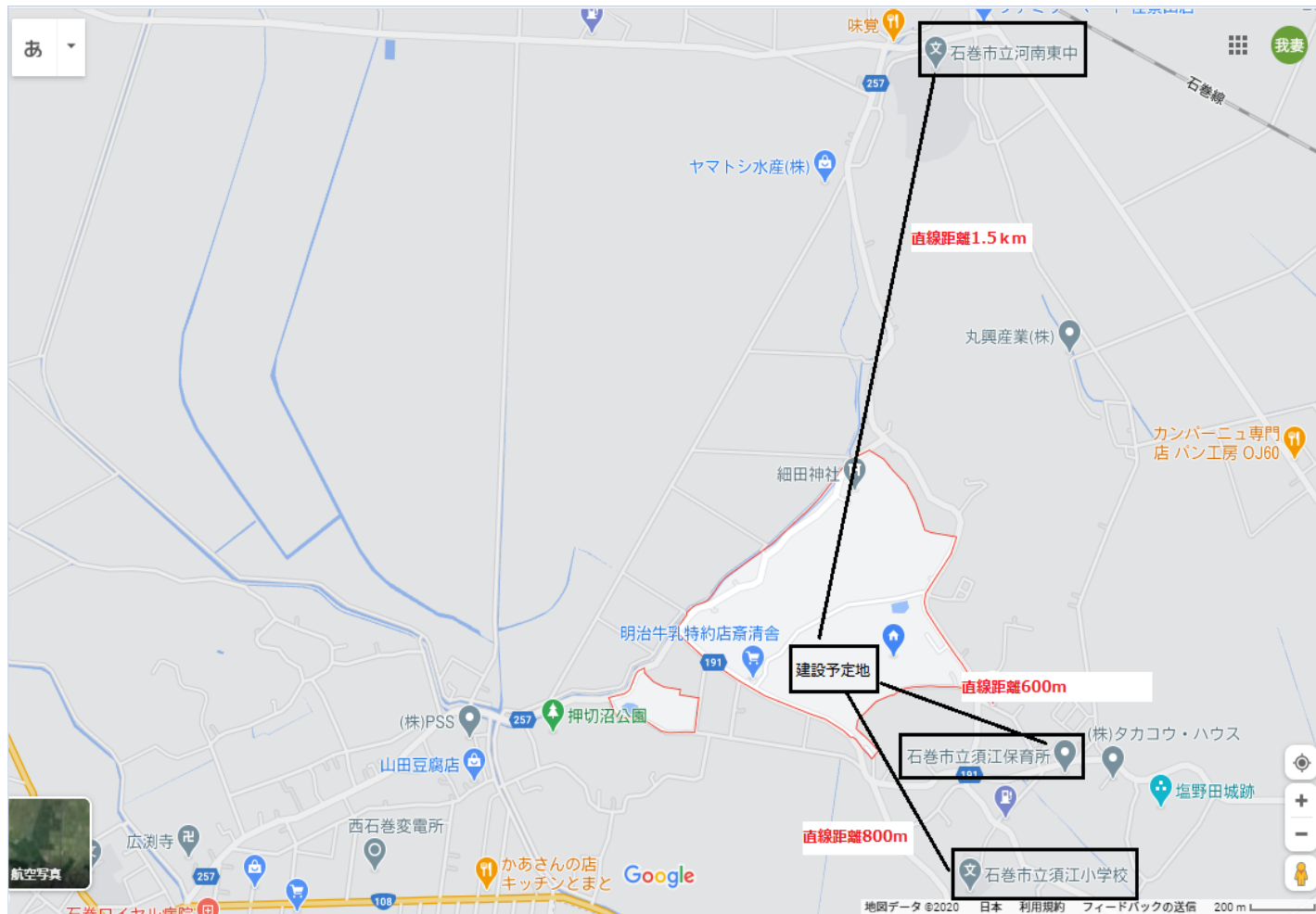
敷地面積約81,000㎡
(内、発電事業で改変する面積は約50,000㎡)
※東京ドーム約2個分の敷地面積

問題点2

小学校、中学校、保育所のすぐそばである

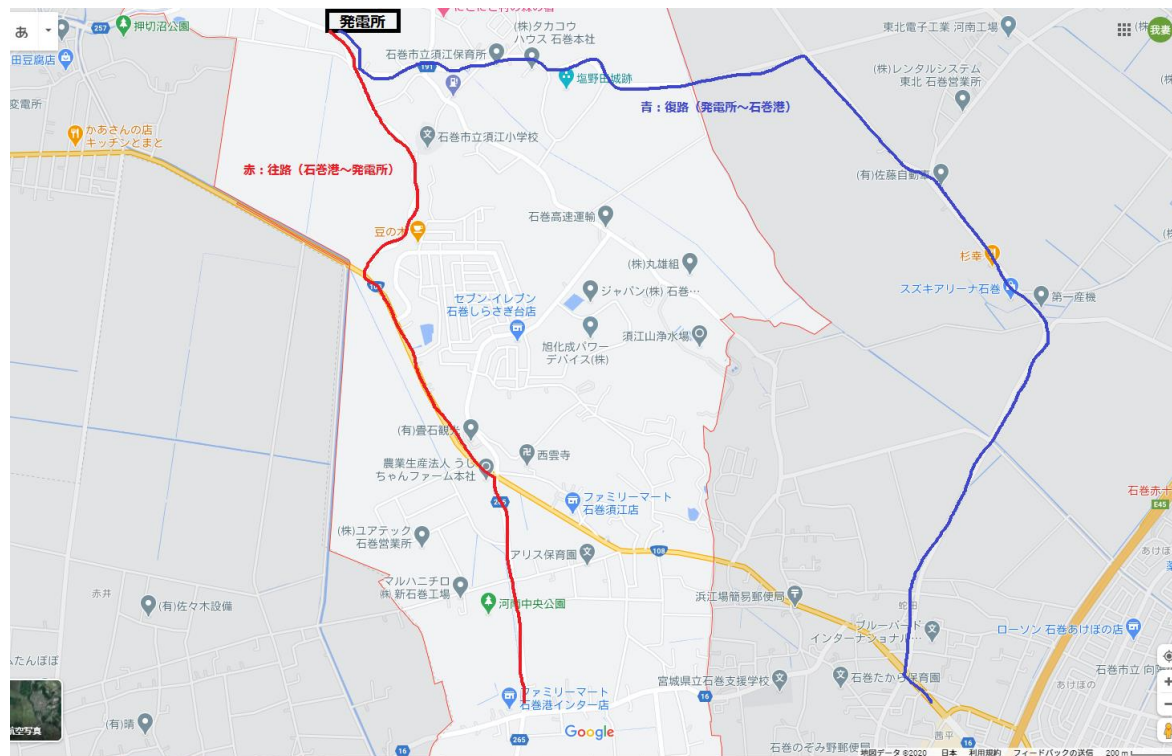
建設予定地の近隣に小学校、中学校、保育所があります。

直線距離600m、800mの須江保育所、須江小学校は社会科や生活科その他活動において、グランド活動や近隣での校外活動もさかんに行われており、大気汚染や臭いは子ども達に何らかの影響を及ぼす可能性があります



問題点3

小・中学校の通学路を燃料運搬トレーラーが一日に33台も通る



想定される21 t | S O タンクトレーラー
全長14m、車幅2.4m
燃料輸送量/日 約700トン
トレーラー/日 約33台

須江地区は小中学校が近く、どの道路も狭く、通学路になっています。また、採石場もあり常に工事車両が通っています。このような状況下、全長14mの燃料運搬トレーラーが33台も通ることは許されません。

事業者は、「走行時間を①9時～11時、②11時～13時、③13時～15時の3つの時間帯に区切り、それぞれ11台ずつ連なって走行する」と発表しました。

$14\text{m} + \text{車間距離}25\text{m}$ (40km/hの場合は $40 - 15 = 25\text{m}$) $\times 11\text{台} = 429\text{m}$

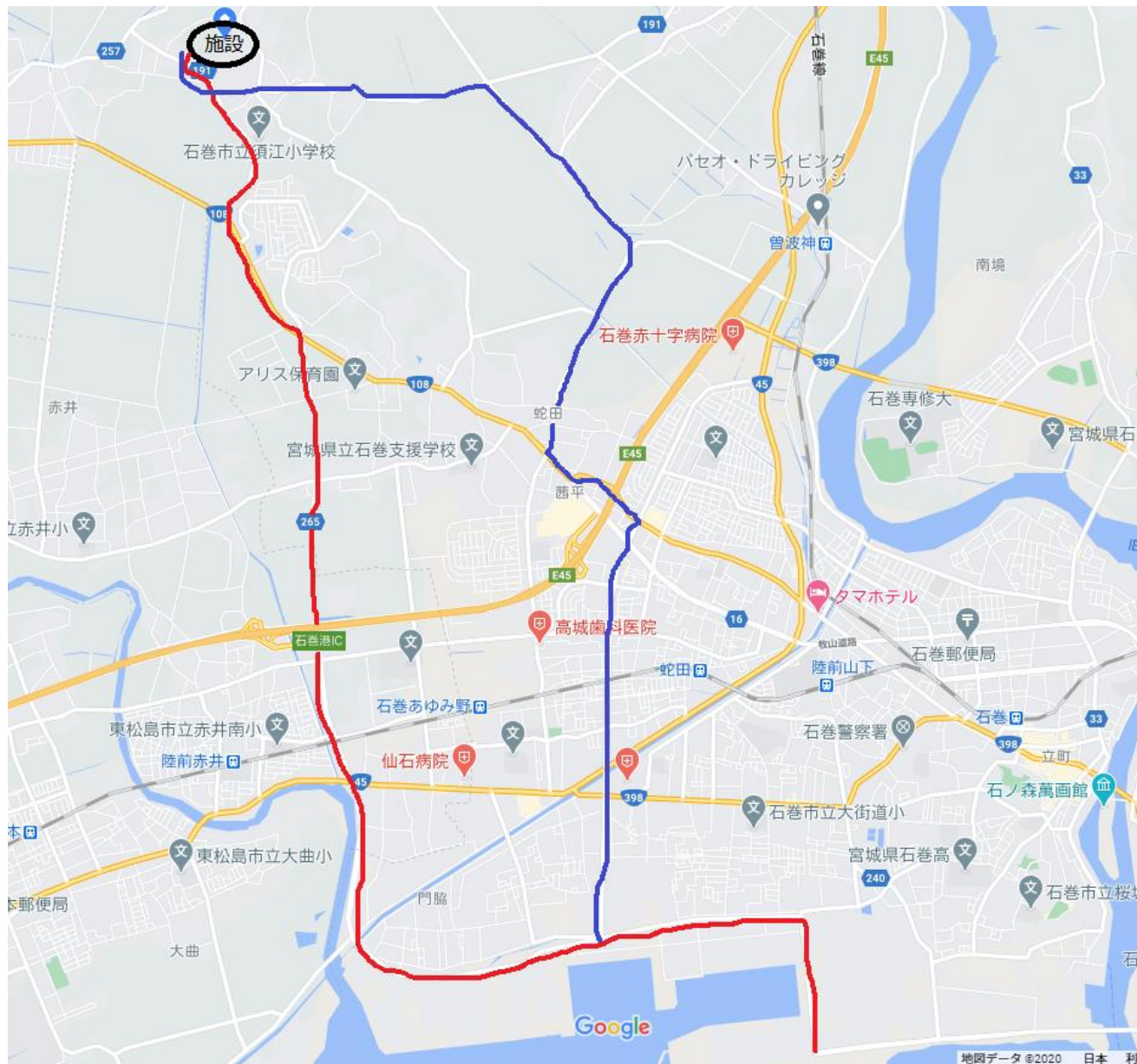
つまり、それぞれの時間帯に**直線距離約500mをトレーラーが占拠することになります。**

そのほかの工事車両、復興車両も通る中、考えられない事態です。

そもそも、石巻港～施設まで右左折が何度もある中、“連なって”走ることは無理です。事業者側の説明にもその場しのぎの感がぬぐえません。



石巻港からの燃料運搬ルートは、蛇田地区を縦断します。 市街地を全長14mの21 t コンテナトレーラーが毎日33台通過します。



赤：往路（燃料積載）

石巻港～45号線～265号線～河南中央公園前を通り、しらさぎ台入り口交差点を左折～108号線を須江小学校方面に右折～須江小学校前を通り～191号線三叉路を左折して施設入り口へ

※須江地区の細い道路を通ります。

青：復路

191号線三叉路を直進～191号線の信号なし歩道なし四方向全面一時停止の交差点を直進～右折して広域農道～108号線で蛇田～マクドナルド・ユニクロの交差点を右折～二番谷地中天東道下線（ホテルルートイン、100均セリア、お好み焼き道とん堀前の道路）を直進～中浦橋～阿部勝自動車前通過～石巻港

※須江地区の細い道路を通り、広域農道から蛇田地区へ抜けます。

内陸地に火力発電所を建設することは、港からの燃料運搬トレーラーのルート確保が非常に難しいという問題があります。また、発電量が大きいため、施設自体も巨大であり、一日に運搬する燃料量も国内でも最大級クラスとなります。

住民の生活道路、狭い通学路、市街地を通ることは重大な事故が起こる可能性が極めて高いと考えられます。

建設地そのものの見直しが絶対に必要です。

須江地区通学路
(運搬トレーラーの予定ルート) の現状



往路復路共通ルート

見通しが悪い農道が多い

小学生・中学生の通学路が運搬ルートになっています。
21tコンテナトレーラーが33台も通れるような道路ではありません。

※資料作成者が実際に撮影した写真を使用しています。

復路ルート



歩道がない通学路が多い



須江地区通学路の現状

往路復路共通ルート



往路復路共通ルート



往路復路共通ルート



特にこの変則的な三叉路は信号も歩道もなく、見通しも悪い上に通学路であり、工事車両がひっきりなしに通ります。中学生と車の接触事故もありました。この三叉路も燃料トレーラーの運搬ルートに入っています。四方向から車が通ります。

須江地区通学路の現状

往路復路共通ルート



次から次へと工事車両が続きます

この道路に5分も立ってればわかりますが、工事車両、復興車両の往来がすさまじいです。

道路幅も狭く、今も**ダンプと普通車が普通にすれ違えない**状況です。

多くのダンプが**センターラインをはみ出して**走行しているような道路です。

往路復路共通ルート



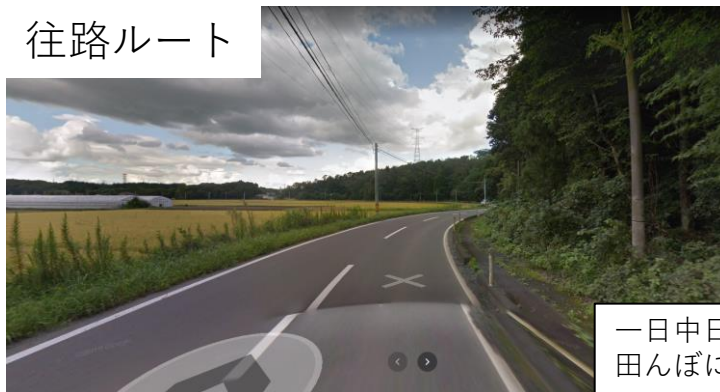
小学生の通学路でもあります

往路ルート

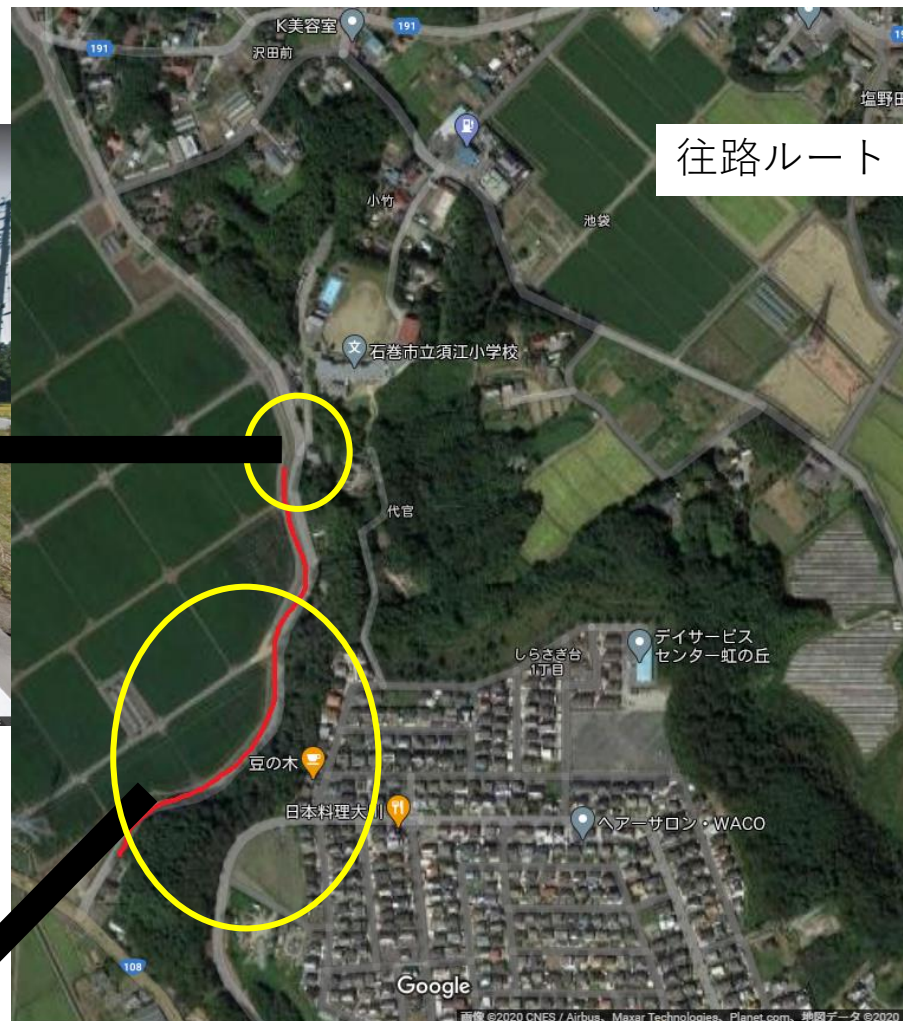


建設予定地が小中学校の真ん中に位置していることから、**建設予定地周辺道路は、ほぼすべて通学路指定**になっています。
農道も多く、歩道もない現状です。復興関連車両、その他工事車両がバンバン通る状況で、さらに燃料の運搬トレーラーが一日33台も往復するというのは、到底許すことはできません。

往路ルート



往路ルート



須江小学校前の108号への道路は、田んぼ反対側の森林の影になっており、見通しが悪い上に**毎冬にスリップ事故が起こる場所**です。冬は凍結しやすく、森林の影になり溶けにくく、晴れていても夕方まで凍っている道路です。

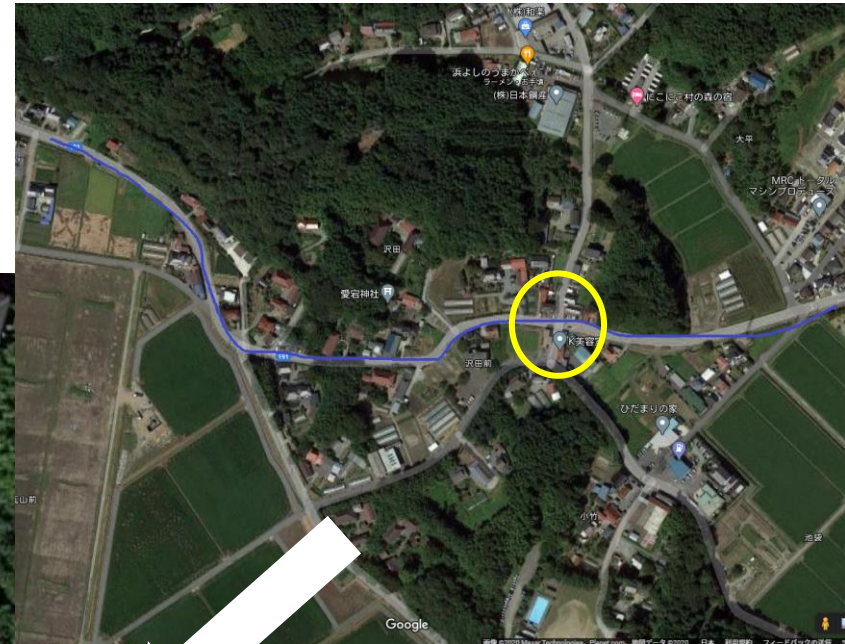
道路幅

①②6.6m (片側3.3m) ③4.7m ④5.2m

※燃料運搬トレーラー想定車幅2.5m 全長14m (普通車3台分)

交差点は全面一時停止道路であり、横断歩道のない通学路です。

4つ角に民家が面しており、通常でも接触事故が多く、非常に危険です。



復路の重大事故懸念場所

5分立っていればわかりますが、どの方向からでもダンプ、トレーラーが通ります。とうぜん、直進だけではなく右左折もします。

信号もない、歩道もない、横断歩道もない、4方向一時停止有りの小中学生の通学路です。すべての車が通り終わるまでは、怖くて渡らせることができません。

ここを、全長14mもある21tトレーラーが33台通るなど、考えるだけで恐ろしいです。

この茶色のお宅のリビングに車が突っ込んできたことがあります。



通学路です。警察官が立っている時は一時停止をするトラックですが、一時停止をしないトラックが非常に多いです。

問題点4

住宅地に200ppmの窒素酸化物を排出する

環境基準値は950ppmであり、事業者の予測数値は200ppmです。（10月31日の説明会での発言）
しかし、200ppmとは**1日にトラックが約100万台通過する際に排気される窒素酸化物と同じ量**のようです。私は専門家ではありませんので、200という数値を言われ「環境基準値を下回っているから大丈夫」と言われても安心できません。事業者からは「環境基準値以下だ」ということしか聞いていません。これで無理やり安心しろと言われても土台無理な話です。

また、施設で使用するディーゼルエンジンで窒素酸化物を下げるためには尿疎水を使用します（事業者は審査会でも使うと言っています）。尿素水の臭いは、煙突から排出され、須江地区に広がると考えられます。
窒素酸化物の低減のために使用される尿素水については、毒性の強いアンモニアガスも発生する可能性があります。アンモニアガスの排出量については事業者側から提示されていません。

天然記念物のホタルが生存するような須江地区の環境が、窒素酸化物とアンモニアの臭い、油の臭いで汚染されることは、断固として反対いたします。

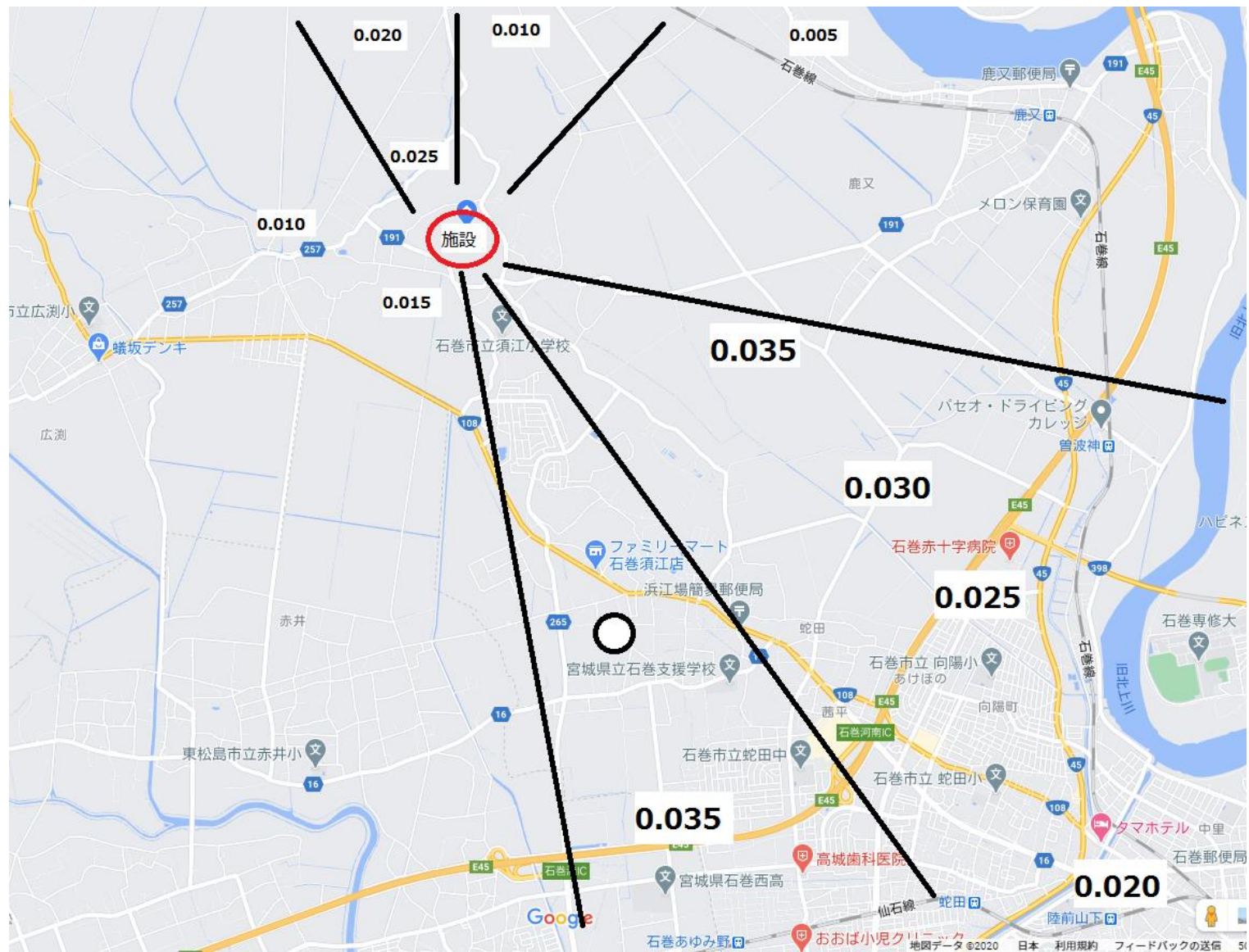
問題点5

液体火力発電所ですが、燃料が定まっています。

去る10月31日の遊楽館での事業者説明会にて、事業者側から提示された燃料は「G-bio Fuel.P」という燃料でした。しかし、加えて続けられた言葉は「この燃料が確保できない場合には、そのほかの植物油がいろいろありますのでそれを使います」ということでした。植物油を燃やすなら何でもいいたろうという事業者の怠慢がうかがえます。燃料の安定供給も定まっていない状況で、日本一の発電量を掲げる事業として、**あまりにもずさんな事業計画**と言うしかありません。

「G-bio Fuel.P」は、現在FIT認定されていません。事業者は「稼働までにFIT認定を取る、ほぼ取れると考えている」と言いました。燃やす燃料も定まらず、住民は臭いを想像することすらできない状況で建設への理解を示すことができるわけがありません。

問題点6 寄与濃度最大着地点が、支援学校のそばにある



図は二酸化硫黄寄与濃度
(単位ppb) の予測値です。

事業者から提示された資料では、○は最大着地濃度地点となっており、支援学校の近くです。生まれつき気管に障害を持っている子どもが多い施設ですが、重大な影響が出るのではないかと心配しています。

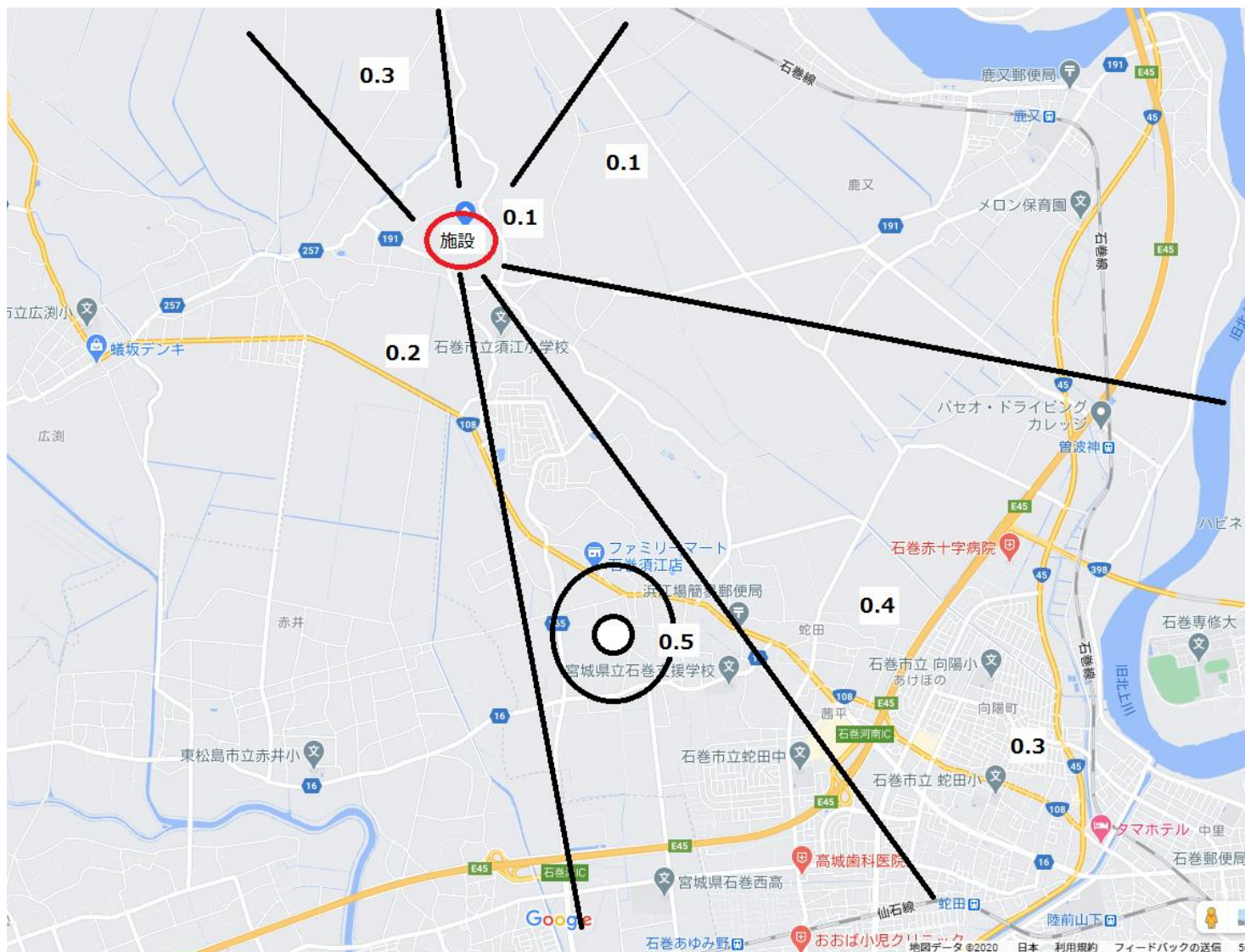
蛇田中学校、石巻西高校、赤十字病院付近も高濃度となっており、微量でも大気汚染は市街地へも影響します。もはや、この火力発電所は須江地区だけの問題ではありません。

※図は事業者提示資料のまま、ずらさずに作成しています。

※資料では二酸化窒素、浮遊粒子状物質の予測結果もおおむね同様の広がり方をしており、すべて支援学校の近くが高濃度着地点となっております。

※見やすいように資料から転記してあります。多少のずれがあるかもしれません。

問題点7 ばいじん（浮遊粒子状物質SPM）の寄与濃度予測



浮遊粒子状物質（SPM）です。単位 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
○は最大着地濃度地点となっており、支援学校の近くです。

SPMだけでなく、窒素酸化物などは、呼吸器疾患を引き起こすと言われています。支援学校では、持病で呼吸器疾患を患っている生徒が多く、病状悪化などにつながる可能性があるならば怖いことです。心配です。

内陸地に建設することで、風向きによる大きな影響が市街地全土を覆うことになり、学校はもとより、石巻市民の健康被害を引き起こしかねません。専門家ではないので詳細はわかりませんが、基準値以下と言われても安心できない気持ちです。

※見やすいように資料から転記してあります。多少のずれがあるかもしれません。

ダウンウォッシュについて



風が強くなると、煙突や建物の周囲に渦が発生し、この渦に煙が巻き込まれると、煙は休息に降下して、地表でも著しい高濃度汚染が生じることがあると言われています。

この現象について、事業者からの説明は一切ありません。施設建設予定地は周りが田んぼが広がっている地域でもあり、体感でかなり強い風が頻繁に吹く地域です。ダウンウォッシュの影響が近隣住民に与える影響が心配です。

須江地区の火力発電施設建設は 石巻市が推進するSDGsと 逆行する側面があります



3. すべての人に 健康と福祉を

- 3.6 2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。
→交通環境の悪化による重大な交通事故の危機に面しています。
内陸地に建設することで、燃料運搬トレーラー問題が浮上しています。
また、建設地のすぐそばに小中学校、保育所があり、どの道路も通学路となっています。
- 3.9 2030年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。
→再生可能エネルギーを使用したバイオマス発電はカーボンニュートラルですが、
内陸地に建設することで、市街地全土を排気ガスで覆うことになります。
小中学校、保育所への影響は計り知れず、建設地を見直し、本当の意味での
カーボンニュートラルを実現すべきです。

11. 住み続けられる まちづくりを

- 11.6 2030年までに、大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。
→住宅地のど真ん中に建設することにより、周辺地域だけではなく、風の影響を強く受けた
排気ガスが市街地へ飛ぶことになります。建設予定地の土地が安く購入できたという理由
での建設はあまりにも軽率です。周辺地域の明らかな環境悪化が目に見えています。

須江地区の火力発電所は『市民意識調査集計結果報告書』 内にある 市民意識に反する事業計画です

〔関心のある環境問題について〕

問 13 あなたが関心のある環境問題を選んでください。（複数回答可）

No.	項 目	回答数	構成比
1	<u>地球温暖化</u>	<u>753 名</u>	<u>67.5 %</u>
2	オゾン層の破壊	240 名	21.5 %
3	<u>大気汚染</u>	<u>291 名</u>	<u>26.1 %</u>
4	川や海の水の汚れ	454 名	40.7 %
5	ごみの減量、リサイクル	444 名	39.8 %
6	ごみの不法投棄	435 名	39.0 %
7	<u>悪 臭</u>	<u>173 名</u>	<u>15.5 %</u>
8	<u>騒音、振動</u>	<u>167 名</u>	<u>15.0 %</u>
9	土壌汚染	91 名	8.2 %
10	エネルギー問題	299 名	26.8 %
11	<u>ダイオキシンなど有害な化学物質による環境汚染</u>	<u>133 名</u>	<u>11.9 %</u>
12	生活の中にある身近な自然の減少	192 名	17.2 %
13	野生生物や希少な動植物の減少	123 名	11.0 %
14	その他	54 名	4.8 %
	無記入	29 名	2.6 %

令和元年度の「市民意識調査集計結果報告書」から抜粋しました。

構成比が高い地球温暖化、大気汚染は市民の関心事項になっています。

先に述べました通り、有害物質は風によって須江地区だけにとどまらず、風にのるからこそ、蛇田地区にも影響するかもしれません。

3 石巻市の環境について

問 13 あなたが関心のある環境問題を選んでください。

- プラスチックごみの増加。(複数)
- 原発の放射能汚染。(複数)
- ゴミ収積所の整備。
- 太陽光発電の設置が増え、景観が損なわれている。
- 特に深夜営業のコンビニなどの無駄なエネルギーの消費。
- 野生生物(シカ等)の増え過ぎによる被害。(複数)
- 野良猫、野良犬の対策。(餌付けやフンの処理など。)(複数)
- ゴミの分別。(複数)
- 新北上川側の山で採石が盛んに行われているが、山崩れや土砂崩が心配。
- 海のプラスチックごみ問題。
- 空き地の雑草。
- 地盤沈下。
- 外来種生物の増殖。
- 他の町からいらっしゃるお客様から、石巻は変なにおいがすると言われます。
- 捨てネコ、捨て犬の保護問題。
- 農・漁・林等資源。
- 太陽光発電の安易な建設による生態、自然破壊。
- ごみ屋敷から発生するハエや害虫、悪臭。また、工場からの悪臭に対しては徹底した衛生指導をしてほしい。
- コペンハーゲンで感心したこと。道路の一角、橋の袂などに蓋付の『ゴミ箱』が設置されていた。川岸の道路、早朝にジョギングする人、ヨットの手入れ。荷物の揚げ下ろしなど賑やかなのに、周りは清潔感にあふれていた。石巻の川岸もこのようにあってほしい。

山崩れ、崖崩れに関しては、須江地区に大きな採石場もあり、さらに日本最大級の火力発電所ができることで、微細振動によって少しずつ起こる山や地盤への影響から大雨などによって一気に土砂崩れが起こることが懸念されます。

毎日燃料が運ばれてくる石巻港、そして須江地区へコンテナが運ばれることで外来種生物のさらなる増殖は大きな懸念です。

もともと港町ですので臭いに関しては変な臭いがしますが、平穏な内陸にも油・アンモニアなどの臭いが加わると、市全体のイメージダウンになります。

工場からの悪臭に関して、すでに衛生指導ができていない点が自由記述欄からも見えるということは、もっと多くの市民が感じている点です。火力発電所が加われば住民からの害虫、悪臭への声はさらに高まるかもしれません。

『令和2年度施政方針における重点施策に位置づける事業』 に大きな悪影響を及ぼします

の事業内容	のノウハウの習得や有益な情報の収集を行い、積極的に意見を交わしながら本市の移住対策を強化する。 さらに、東京23区の在住者や通勤者が本市に移住し、就業及び起業をされた方を対象に移住支援金の支給を実施する。		
事業名等	地域おこし協力隊設置事業		
担当課	復興政策部地域振興課	摘要	継続
令和2年度の事業内容	「地域おこし協力隊」を設置し、地域外の人材を積極的に受け入れて、地域活動を行い、定住・定着を図るため、現隊員の活動を支援しながら、新たな隊員の募集を行う。		
事業名等	石巻版松下村塾事業		
担当課	復興政策部地域振興課	摘要	継続
令和2年度の事業内容	起業における基礎的知識のほか、事業構想や経営理念等を学ぶ機会の提供を実施する。具体的には、事業の立ち上げに必要なブランドイメージづくりのノウハウや資金繰りに必要な事業計画の作成方法等、講師による基礎的な知識のレクチャーと併せて、個別相談等を行い事業の立ち上げに伴走支援する。		
事業名等	河南地区小規模宅地開発対策事業		
担当課	建設部道路第1課	摘要	継続
令和2年度の事業内容	民間事業者による小規模宅地開発地に隣接する未整備の市道、水路等の改修を行い、住環境の改善と居住者の利便性の向上を図り、本市への定住を促進する。		

河南地区小規模宅地開発対策事業における住環境の改善において、完全に逆行する火力発電所の建設計画です。

燃料運搬トレーラーによって交通の利便性は損なわれ、悪臭・大気汚染・振動・騒音によって定住促進を勧められるような環境ではなくなることが懸念されます。

石巻市民憲章

太陽の恵みを受け、太平洋と北上川に育（はぐく）まれた
「日（ひ）高見（たかみ）の国（くに）」。

わたしたちは、この美しい郷土を愛し、笑顔あふれる希望のまちをつくり伝えるため、ここに市民憲章を定めます。

まもりたいものがある
それは 生命（いのち）のいとなみ
豊かな自然

つたえたいものがある
それは 先人の知恵
郷土の誇り

たいせつにしたいものがある
それは 人の絆（きずな）
感謝のこころ

わたしたちは 石巻で生きてゆく
共につくろう 輝く未来

須江地区住民から猛反対を受けている火力発電所の建設は、天然記念物のホタルが舞うほど豊かな自然とキレイな空気の須江地区の郷土を汚染し、騒音、振動、交通障害によって住民の笑顔は失われるかもしれません。

再生可能エネルギーは否定いたしません、住環境悪化につながる住宅地・学校のすぐそばでの建設は断固として反対いたします。